

第 2 号刊行にあたって

ここに、『映画で学ぶ《教育学》』第 2 号を刊行する。

創刊号に引き続き、今号には洋画 6 本、邦画 3 本、テレビ放送作品 2 本、ドキュメンタリー作品 3 本、計 14 本の視聴覚資料の紹介と論考を収録することができた。

「哲学」するフランスの園児たち、体に爆弾を巻きつけてイスラエルへ自爆攻撃に向かう青年、馬のプレゼントを届けてくれない聖ニコラスに「バカ！」と言い放つ中国人移民の少女…映像に描かれた懸命に生きる人々の姿からは、多くのことを考えさせられる。とりわけ教育学を志す者にとって、それらは教育に対する自らの問題意識を確認し、深め、さらに研究を発展させていくきっかけを与えてくれる。

本誌は、教育学を専攻する大学教員 4 名と大学院生 10 名とが、互いの論考に刺激を受けつつ、推敲を繰り返してようやく完成したものである。教師を目指す学生諸子、日々子どもたちと向き合い教育実践をされている教員の皆様、そして教育学に関心を持つすべての同志に向けて、本誌をお届けする。

今回もまた、DVD 販売元及びご担当者の皆様には多くのご支援を頂いた。画像掲載の許諾、ジャケット写真や場面写真の提供を受けてはじめて、このような鮮やかな冊子が完成する。表紙の画像については、筑波大学附属図書館古典資料室の山中真代さんにご協力を頂いた。本誌完成のためにご尽力下さった皆様に、心より感謝申し上げたい。

ここで、著作権処理の手続について若干書き留めておきたい。DVD ジャケット写真等の画像は、多くの場合、販売促進を目的として提供される。そのため、販売中止となった作品は、画像掲載の許諾を得ることが基本的に難しい。また、テレビ番組を収録した場合など、DVD 販売元では著作権についての判断ができないこともある。今回は、「観ていただく方々に自由に感じていただきたい」という著作権者の意向により、画像掲載許可の下りない例もあった。なお、本誌は筑波大学電子図書館「つくばリポジトリ」に掲載予定であるが、使用した画像の中には、ウェブアクセスの制限が設けられているものもある。この場合、リポジトリに掲載するデータを加工する等の対処を行う予定である点、申し添えておく。

読者の皆様から忌憚のないご意見、ご批判を頂戴し、さらなる研究の発展を目指したい。

2012 年 12 月

代表 荒川 麻里